大阪・熊本からは初

センバツ21世紀枠 候補9校決定

来春の第91回選抜高校野球大会（毎日新聞社、日本高校野球連盟主催、朝日新聞社後援、阪神甲子園球場特別協力）の「21世紀枠」の各地区の候補校9校が14日、発表された。来月25日の選考委員会で候補校の中から3校が選ばれ、一般選考（神宮大会枠1を含む）29校とともに、来年3月23日から12日間（準々決勝翌日の休養日を含む）、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開かれる大会に出場する。

石岡一（茨城）など6校が初の候補校。八尾が選ばれた大阪府、熊本西が選出された熊本県は初めて地区の候補になった。金津（福井）は2年連続2回目、平田（島根）は第87回大会（2015年）以来2回目、富岡西（徳島）は第80回大会（08年）以来3回目。古川（宮城）、清水桜が丘（静岡）、金津、平田、熊本西の5校が秋季県大会準優勝。7校が地区大会（北海道を含む）に出場し、釧路湖陵（北海道）、古川、富岡西が4強に入った。

センバツや夏の全国選手権に出場経験があるのは、前身の清水商時代に春夏計3回出場した清水桜が丘、同10回出場の八尾、夏1回出場の熊本西の3校。八尾は1952年夏の甲子園で準優勝。21世紀枠は練習環境などの困難克服や地域貢献など、野球の実力以外の要素を選考条件に加えることで、出場を逃している学校に機会を広げることを目的に第73回大会（01年）から設けられた。【安田光高】

◇選考方法　第1次選考では、単独地区扱いとなる北海道を除く46都府県高野連が地域の毎日新聞支局などと協議し1校ずつ推薦。さらに8地区に分けて2次選考を行い、北海道を含む9地区で各1校の候補校を絞り込んだ。

センバツ選考委員会当日に「21世紀枠特別選考委員会」（委員長＝八田英二・日本高野連会長）を開いて3校を決める。特別選考委ではまず、東日本（北海道、東北、関東・東京、東海、北信越）と西日本（近畿、中国、四国、九州）から1校ずつ選び、残り1校は地域を限定せずに選出する。

残った6校は一般枠の推薦校として、各地区小委員会での選考対象に加わる。

プロフィルは①公私立の別②所在地③学校創立年④生徒数⑤野球部創部年⑥1、2年生の野球部員数（マネジャーを含む）⑦春の選抜、夏の全国選手権出場歴⑧秋季大会の成績

地区	都道府県別推薦校	候補校	プロフィル	推薦理由
北海道	釧路湖陵	釧路湖陵	①道立 ②釧路市 ③1913年 ④718人 ⑤1916年 ⑥24人 ⑦なし ⑧道4強	北海道東部屈指の進学校で、定期試験に向けて部内で取り組みを分析し、独自の小テストを作成するなど文武両道を実践する。部員が顧問に提出する野球日誌には保護者もコメントを週1回記入し、保護者も含めて活動している。今年の秋季北海道大会で61年ぶりに4強入りした。
東北	青森山田 岩手 宮城 秋田 山形 福島 八戸工大一 千葉黎明 古川学園 秋田商業 田村 磐城	古川	①県立 ②大崎市 ③1897年 ④716人 ⑤1921年 ⑥25人 ⑦なし ⑧県準優勝、地区4強	県北部随一の進学校で平日の練習は2時間程度ながら、集中して取り組み、57年ぶりに東北大会に出場した。2015年の豪雨で地元の川が氾濫した際には後片付けに駆けつけ、東日本大震災の被災地での復興ボランティア活動にも毎年参加するなど地域貢献にも尽力している。
関東・東京	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 石岡一 今市 ※伊勢崎清明 松山 佐倉 東横 亜細亜 浜学園 甲府商 城西	石岡一	①県立 ②石岡市 ③1910年 ④946人 ⑤1914年 ⑥49人 ⑦なし ⑧県4強	創部104年の伝統校で、昨年まで2年連続で春季関東大会に出場するなど近年安定した成績を残している。普通科に加えて園芸科と造園科があり、農場実習などで全部員が練習にそろわないハンディキャップを抱えるが、短時間ながら工夫を凝らした密度の濃い練習をしている。
東海	静岡 愛知 岐阜 三重 清水桜が丘 知多 阜西 岐阜 木曽 清水桜が丘 尾東 阜本	清水桜が丘	①市立 ②静岡市 ③2013年 ④838人 ⑤2013年 ⑥36人 ⑦春2回、夏1回※ ⑧県準優勝、地区1回戦	清水商と庵原が統合して開校。清水商サッカー部は川口能活や小野伸二らを輩出。平日のグラウンド使用はサッカー部が中心で、2013年創部の野球部の1期生は足を踏み入れられずに引退した。能動的に学ぶ「アクティブラーニング」を野球に活用し、選手の自主性を育む。
北信越	長野 新潟 富山 石川 福井 野沢 飯山 新潟 富山 小松 金沢 山南 東海 商業 津	金津	①県立 ②あわら市 ③1983年 ④650人 ⑤1983年 ⑥26人 ⑦なし ⑧県準優勝、地区1回戦	急速に過疎化が進む地域で部員不足に悩まされながら、秋季福井大会で昨年は優勝、今年は準優勝した。市内唯一の高校として地元の祭りでの清掃活動や小学校での授業実践などで地域に貢献し、野球人口拡大のために少年野球チームとの交流会や中学生との練習会に協力している。
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 高島 京都すばる 八尾 六甲アイランド 橿原 南部	八尾	①府立 ②八尾市 ③1895年 ④955人 ⑤1915年 ⑥34人 ⑦春6回、夏4回 ⑧府16強	創立123年の伝統を持つ進学校。春夏計10回出場も1959年夏を最後に全国から遠ざかっている。週1回は休養日で、グラウンドは他部との共用のため、使えるのは週3回。午後7時完全下校と時間も制限される中、主将を中心に部員が練習メニューを考えて取り組んでいる。
中国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 米子東 平田山 勝山竹 大工 萩商	平田	①県立 ②出雲市 ③1916年 ④473人 ⑤1951年 ⑥29人 ⑦なし ⑧県準優勝、地区1回戦	「平田地域の活性化に貢献する」ことを部の活動目標とし、普及班の企画で昨年は地元の全22幼稚園・保育園の年長児を対象に野球体験教室などを開催した。活動をもとに作成した「幼児向け野球体験会実施マニュアル」は県内だけでなく、鳥取県や広島県等の高校も参考にしている。
四国	香川 徳島 愛媛 高知 志度 富岡西 新居浜 高知工	富岡西	①県立 ②阿南市 ③1896年 ④724人 ⑤1900年 ⑥42人 ⑦なし ⑧県3位、地区4強	創立122年の進学校。平日約2時間の練習はグラウンドが他部との共用で内野しか使えず、早朝練習や週末の校内合宿で補う。部員が生徒会長のほか、生徒会13専門委員会のうち六つで委員長を務め、生徒会活動にも熱心。休日は学校周辺のゴミ拾いをしてから練習を始めている。
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄 鞍手 鹿島 鎮西学院 熊本 津久見 都城西 川内 普天間	熊本西	①県立 ②熊本市 ③1975年 ④1038人 ⑤1976年 ⑥40人 ⑦夏1回 ⑧県準優勝、地区8強	部内で部室管理班やネット管理班、天気掌握班などユニークな班編成を組み、各部員が練習の効率化や部の運営に自主的に関わる。新チーム結成後設立の野球普及・地域活性化班を中心に、こども園の園児にティーボールを教えるイベントや地域の清掃活動を企画、運営している。

選考基準　21世紀枠はセンバツの招待大会としての特性を生かし、高校野球の模範的な姿を実践している学校を以下の基準に沿って選ぶ。①秋季都道府県大会のベスト16以上（加盟校が129校以上の都道府県はベスト32以上）が対象②以下の推薦例のいずれかに当てはまる学校。▽少数部員、自然災害など困難な環境の克服▽学業と部活動の両立▽数年間にわたって試合成績が良好ながら、強豪校に惜敗するなどして甲子園出場機会に恵まれていない▽創意工夫した練習で成果を上げている▽部外を含めた活動が他の生徒や地域に好影響を与えている。

※伊勢崎清明は11月26日に推薦辞退。清水桜が丘の甲子園出場回数は前身の清水商時代